

103 やま かみいしほこら  
山の神石祠



指 定 市有形文化財 昭和56年 8 月 1 日  
所在地 御 馬 寄  
所有者 御 馬 寄 区



浅科小学校の南300mほどのところ（字山の神）に、御馬寄の勝手神社の所有地があり、そこに祀られていたのが山の神石祠である。現在は、勝手神社境内に安置されている。

この石祠は、流れ造りの屋根と本体と土台と置台からなっているが、その土台部分の裏面中央に「永徳三年建立」と彫られている。なお、御馬寄村誌によれば、かつて水災によってこの石祠が傾きくずれたことがあった（年代不詳）。そのとき村人は、はじめてこの石祠に文字が彫られていることを知ったという（『長野県町村誌』東信篇）。

では、この永徳3年（弘和3年=1383）ごろは、どういう時代だったかという、建武3年（延元元年=1336）にはじまった南北朝の内乱の末期で、北朝方すなわち将軍足利義満の権限が強化拡大されていった時代だった（南北両朝が合体するのは、この9年後の明德3年=元中9年=1392）。もっとも、信濃は両朝合体の30余年前には、すでに室町幕府の勢力下にはほぼ入っていた。延徳という北朝の年号が使用されていることから、それがわかる。しかし、このような時代に、だれがこの石祠を建立したかはわからない。

ちなみに、字山の神の東側には、流鑄馬・的場・下木戸・上木戸など、このあたりに鎌倉時代の館があったことをうかがわせる地名が残っている。